

日本家庭科教育学会 2015（平成 27）年度例会

日本家庭科教育学会
会長 伊藤 葉子

日本家庭科教育学会 2015 年度の例会を下記の要領で開催いたします。
会員の皆様、どうぞ多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2015 年 12 月 12 日（土） 13：00～17：00（受付は 12：30 から）

場所：東京学芸大学

* JR 武蔵小金井駅・北口より 京王バス 5 番バス停 小平団地行きに乗車
約 10 分 「学芸大正門」下車

* JR 国分寺駅・北口より 徒歩約 20 分

タイムスケジュール

受付	12：30～	南講義棟 S 棟 4 階エレベーター前
研究発表	13：00～14：20	S410, S402, S403, S404, S405, S406
課題研究中間報告会	14：30～15：10	S403, S404, S405, S406
講演・指定討論会	15：20～17：00	S410

理事会 10：00～12：00（南講義棟 S 棟 4 階 S402）

地区会代表者会議 17：15～19：00（総合教育科学研究棟 第 3 号館 5 階 501）

- ★研究発表および課題研究中間報告会の発表者でパワーポイントご使用の方は、12：30 から 12：50 までの間に各会場にてデータのインストールを行ってください。
- ★口頭発表の時間は 15 分、質疑応答の時間は 5 分です。
- ★口頭発表のための資料は、パワーポイントおよび印刷物とします。

参加費：正会員 1,800 円 学生会員 1,000 円
非会員 2,000 円 学生非会員 1,500 円

上記に関する問い合わせ先： 日本家庭科教育学会事務局
〒112-0012 文京区大塚 4-39-11 仲町 YT ビル 3 階
Tel & Fax 03-3942-7885
E-mail kateika@amethyst.broba.cc

I. 研究発表（13:00～14:20）

第 1 会場（S 4 1 0 講義室）

座長 川邊 淳子（北海道教育大学旭川校）

- 1-1 小学校家庭科における生活実践力の向上 ○菊地教子（秋田大学大学院教育学研究科（院生））
一家庭科，生活科での授業実践を通して一
- 1-2 小学生の家族の一員としての認識と自己肯定感の関係性 ○河合衿香（岐阜県養老町立池辺小学校）
志村結美（山梨大学）

- 1-3 中学校家庭分野における「家族」教育の現状と課題
○永田夏来（兵庫教育大学）
村田晋太郎（兵庫教育大学）
山本亜美（兵庫教育大学）
- 1-4 小中高と連携した家族領域の学びについて
－高校1年生の家族に関する意識調査から－
○池尻加奈子（東京都立清瀬特別支援学校）
小野恭子（弘前大学）
石津みどり（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
佐藤麻子（東京学芸大学附属小金井中学校）
藤田和美（東京都小平市立小平第十一小学校）

第2会場（S404講義室）

座長 西 敦子（山口大学）

- 2-1 調理実習における児童の学びの内実
－小学校5年生温野菜サラダづくりの記録から－
○山下綾子（埼玉大学大学院教育学研究科（院生））
河村美穂（埼玉大学教育学部）
- 2-2 教師が経験とともに獲得する調理実習の指導技術
○佐藤那奈（埼玉県八潮市立八幡中学校）
河村美穂（埼玉大学教育学部）
- 2-3 小学校給食時の「5分間指導」による専門学科高校生学習効果
○荒井きよみ（東京都立戸山高等学校）

第3会場（S405講義室）

座長 尾島 恭子（金沢大学）

- 3-1 小・中・高等学校の家庭科教育における生活文化に関する授業の現状と課題
－国立大学法人附属学校家庭科教員調査とその聞き取り結果から－
○仲田郁子（千葉県立流山はやおたかの森高等学校）
亀井佑子（愛国学園短期大学）
志村結美（山梨大学）
仙波圭子（女子栄養大学）
檜府暢子（東京大学教育学部附属中等教育学校）
- 3-2 家庭科教員の衣生活領域における実験・実習に対する意識
○菊地英明（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（院生））
生野晴美（東京学芸大学教育学部）
- 3-3 体感型住環境教育の長期的効果
○飯野由香利（新潟大学人文社会・教育科学系）
- 3-4 デンマークの教科「手工とデザイン」における教育目標と評価基準の特質
○一色玲子（聖カタリナ大学短期大学部）

第4会場（S406講義室）

座長 野田 文子（大阪教育大学）

- 4-1 消費者市民を育成する学習機会と指導方略
ー大学生に焦点を当ててー ○大本久美子（大阪教育大学）
- 4-2 家庭科教員養成における授業の終わりに焦点をあてたカンファレンスの実施
ージグソー学習を取り入れた模擬授業ー ○伊深祥子（愛知教育大学）
- 4-3 自己の生活自立と家庭内役割に家庭科履修が及ぼす影響
ー男子中学生を対象とした調査からー ○花形美緒（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（院生））
- 4-4 男女必修家庭科20年目における高校生の意識・実態
ージェンダー観, 生活主権者意識を中心にー 荒井紀子（福井大学教育地域科学部）
○春貴良幸（福井大学大学院 教育学研究科（院生））
村田尚未（越前町立宮崎中学校（非））

第5会場（S403講義室）

座長 福井 典代（鳴門教育大学）

- 5-1 家庭科教育におけるキーコンピテンシー育成のための教材開発 ○田中由美子（安田女子大学家政学部）
- 5-2 高等学校家庭科教科書における貧困に関連したキーワードの記述に関する検討 ○坪内恭子（元東京都立大江戸高等学校）
青木幸子（東京家政大学短期大学部）
大竹美登利（東京学芸大学教育学部）
長田光子（東京都立大山高等学校）
神山久美（山梨大学大学院総合研究部）
齋藤美保子（鹿児島大学教育学部）
田中由美子（安田女子大学家政学部）
- 5-3 家庭科教育による「仮想的有能感」抑制の可能性
ー「生きる力」と「共感性」を育むためにー ○福田豊子（常磐大学人間科学部）
- 5-4 中国の高校生に向けた消費者教育の提案 ○孫懿娜（宇都宮大学教育学研究科大学院（院生））
赤塚朋子（宇都宮大学教育学部）

第6会場（S402講義室）

座長 八幡（谷口） 彩子（熊本大学）

- 6-1 中学校家庭科の教科書にみる防災に関する内容の変遷 ○末川和代（日本女子大学大学院人間生活学
研究科(院生)）
天野晴子（日本女子大学家政学部）
- 6-2 中学校家庭科における「災害食」を題材とした課題解決的な学習の開発
—中学生への質問紙調査結果から— ○小林裕子（兵庫教育大学大学院学校教育
研究科（院生））
永田智子（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）
- 6-3 高等学校家庭科教員を支援するWEBサイトの開発と評価 ○山本亜美（兵庫教育大学大学院学校教育
研究科(院生)）
永田智子（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）
- 6-4 「問題を見つける」段階における生徒の認知特性
—中学校家庭分野消費生活領域における実践を通して— ○村田晋太郎（兵庫教育大学大学院学校教育
研究科（院生））
永田智子（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）
相川美和子（兵庫教育大学附属中学校）

II. 課題研究 中間報告会（14：30～15：10）

テーマ1 グローバル化と家庭科

分科会1-1 外国につながるのある小学校児童の現状と家庭科の課題 （第2会場 S404講義室）

報告者：上野顕子（金城学院大学生生活環境学部）
福留奈美（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所）
司会者：河村美穂（埼玉大学教育学部）

主な自治体における外国につながるのある児童の現状や行政サポートについて調べた後、教員へのインタビューや授業観察を行った。本報告では愛知県と東京都の事例を紹介し、現段階での家庭科教育の課題探究を試みる。

分科会1-2 グローバルな視野で世界の家庭科をつなぐ —レッスン・スタディを中心とした日本からの発信と交流— （第3会場 S405講義室）

報告者：一色玲子（聖カタリナ大学短期大学部）、
貴志倫子（福岡教育大学）
司会者：鈴木 真由子（大阪教育大学）

本テーマは、グローバルな視野から国内外の家庭科をみつめ実践交流を促すことを目指しており、本報告では世界のレッスン・スタディの動向の理論的整理と、日本の家庭科におけるレッスン・スタディの実態と特性、課題を報告する。

分科会 1-3 グローバルな視点を導入した家庭科カリキュラム開発 (第4会場 S406講義室)

報告者：大本久美子（大阪教育大学）

司会者：松岡依里子（大阪成蹊短期大学）

本研究グループでは、グローバルな視点を読み解く教材と授業方法を探求している。21世紀に必要とされる学力とは何か、授業実践に即してカリキュラム開発のポイントを議論したい。

テーマ2 貧困と向き合う家庭科

分科会 2 貧困と向き合う家庭科—高校家庭科の取り組みを中心に— (第5会場 S403講義室)

報告者：神山久美（山梨大学）

司会者：齋藤美保子（鹿児島大学）

家庭科で、貧困に立ち向かい生活課題を解決できる力を育成することを追究する。これまでに「高校生の日常生活の実態」(鳴門大会),「高校家庭科開設科目の実態」(ARAHE),「高校家庭科教科書の内容」(本例会)として発表した。

Ⅲ. 講演・指定討論会 (15:20~17:00)

会場：講義棟（S棟）4階 S410

テーマ：教育改革と家庭科

—いま家庭科教育に求められているもの—

趣旨：

この夏に次期学習指導要領の骨格案が示された。2020年度以降、小学校から順次実施が目指されている。今回の改訂は、指導内容の検討だけではなく、指導方法や評価の改善にも力点が置かれるのが大きな特徴である。また、高等学校の公民に新設予定の科目「公共」(仮称)では、消費者教育や家族などについても扱われるなど、家庭科や他教科等との連携が求められている。

今回の教育改革で家庭科教育ではどのような改訂が行われようとしているのか、他教科等との連携をどのように進めていけばよいのか、学会としてどのような取り組みが求められるのかを考える場としたい。

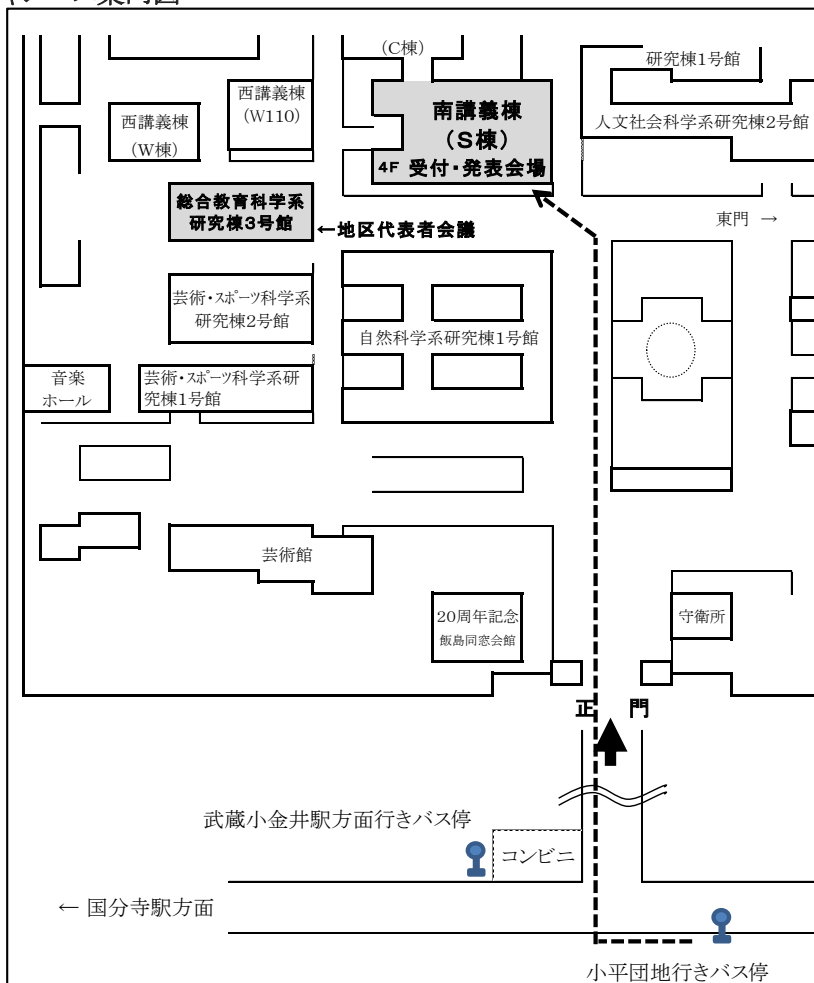
基調講演

望月 昌代（もちづき まさよ）氏（文部科学省初等中等教育局視学官）

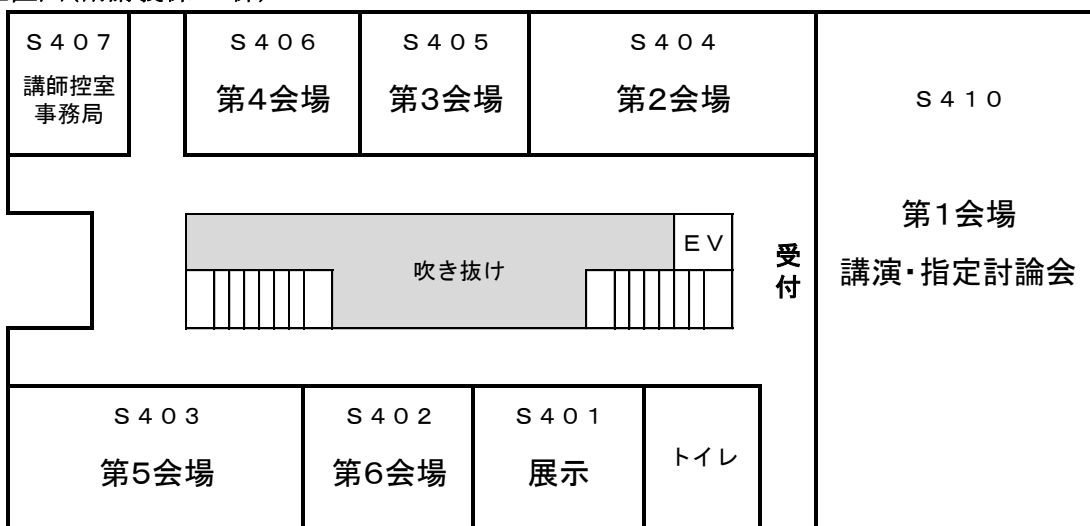
指定討論者 赤塚 朋子 氏（宇都宮大学教育学部）

コーディネーター 荒井 紀子 氏（福井大学教育地域科学部）

東京学芸大学キャンパス案内図



会場配置図(南講義棟 S棟)



※理事会は午前中に S402 で行います